

東大・岡さん 聖母マリア図『新説』を提起

史料編纂（へんさん）所助教の岡美穂子さんが6日、長崎市内であつた第54回長崎・キリストian文化研究会で講演した。昨年、フランスからカトリック長崎大司教区に返還された「聖母マリア像」について、「当初（長崎・）浦上村伝来とされたが、外海・出津のかくれキリシタンが隠し持つていたものである」と“新説”を提起した。

## 長崎で講演



「聖母マリア図」をめぐる謎  
について語る岡さん  
=長崎市立山1丁目、長崎歴  
史文化博物館

## 布教に絵画活用の可能性

堂にある全聖画と引き換えてい  
ても」入手したいと考えてい  
たが、かなわなかつたと指摘。  
「ブティジヤン神父が手に入  
れたなら、69年の公会議に持  
参して披露するのではない  
か。日本と関係ない（ポワリ  
エ神父の）親戚に贈つたとい  
うのも、ふに落ちない」と語  
った。

「なぜ長崎は怒りなのか」。被爆地長崎者経験のあるジャーナリストの馬場周一郎、6日、長崎市内で講演。戦後文学や芸術の祭典などり、原爆が投下された「浦上」の歴史を語った。

部落解放同盟長崎など7団体で組織された「被爆70年—浦上町」実行委が主催。約100人ほどが聴講した。旧浦上町長馬場さんは「浦成するのはキリシヤ馬場、被差別部落。原爆、被差別部落。が原爆の犠牲となる約千人のうち、半民約千人のうち、半が原爆の犠牲となっている人たちが、断層となつていて、提起。被爆医師、（1908～51年）上畠祭説」や「長崎